

通信

鬼の絵詞

おにのえことば

第三号

Oninoekotoba free paper is made by Tamairo creatorz, Kumohara Onisobaya restaurant. We are writing about stories of Oni, Japanese demon said to used to live in Fukuchiyamacity, Kyoto.

今回の特集は……
ふくちやまと鬼
鬼伝説紀行
鬼の「ゆかり」訪ねて
我が鬼伝説



撮影：太田哲雄さま

鬼ヶ城より大江山連峰を望む Sight from Onigajo

鬼ヶ城（おにがじょう）

「丹波丹後の境なる鬼ヶ城と聞きしは、天狗よりも恐ろしや」。謡曲『花月』の一文です。福知山市街と大江町の境にある鬼ヶ城という山は、室町の世からずっと鬼伝説の名所と知られてきました。鬼ヶ城はその名の通り、鬼の住んだ城でした。酒吞童子の右腕とされた鬼、茨木童子が守った城と伝えられています。京から下がる討手の軍を、引き留めるために築かれた要塞とても申せましょう。歴史の中では、「丹波の赤鬼」と呼ばれた戦国武将・赤井直正が城塞を設けた場所としても知られ、ここに城を設けた酒吞童子の戦略眼のするどさを感じます。鬼も、武将も、要と見ていた鬼ヶ城。豊かな自然は美しくも、今も侵入者を拒むかのよう。山頂からは福知山の街と大江山の頂たちを一望できます。どうか鬼ヶ城に登った際は北を背にし、南を睨んでみてください。茨木童子は北の千丈ヶ嶽を守り、南から来る討手を迎えたのですから。

連載 ふくちやまと鬼三

ゆるっと！酒吞童子退治の事！

One of the heroes Kintoki is famous for his powerfulness. Yosunsa is a relatives of Yorinitsu and has been a miserable life.

第五話
坂田公時（さかたきんとき）

殿のお身体、良くなりませんね
お前は落ち着け
お前が鬼退治決めてからじゃん、呪いをかけたんだよ！
鬼のせいじゃね？
はあ？
つーか、殿のビョーキで、鬼のせいじゃね？
頼光さま、美しいしやさしいし、頭良いし……
頼光さま、動けなくすればいいって、ずるい鬼が考えたんだ！ぜったい！
綱、悪いけど、薬師の重雅はんのところへ頼むわ俺は薬草探すし

第六話
藤原保昌（ふじわらのやすまさ）

あ、やっさん……
具合はどうや
やあ、頼光
件 の討伐、私もともに行くことになったんや
え、あ……
さよつづつか
ま、マジかあ……
お、大殿にはほんま感謝やなあ……
えろう助かります
……
祖父は怨霊、兄は早逝、弟と甥は謀叛人の犯罪者。この十年後、父は島流し
大方いつ死んでもいいから、選ばれたんやろなあ

マンガについて 原作 海熊童子／作画 飛矢文／図案協力 れんみえどり
酒吞童子退治、鬼退治の伝説はさまざまにあります。『前太平記』に描かれた世界を軸に、いろいろな伝説の要素を取り入れ、私たちの新しい鬼伝説を描き出します。

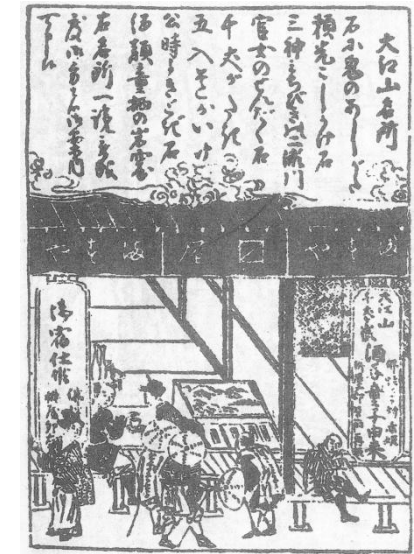
鬼伝説紀行 第三回

『前太平記』を中心に、鬼伝説を追いかける。
第三回は、福知山周辺に残る地域の伝承としての物語と『前太平記』を比較してみます。

『地域伝承』と『前太平記』

室町時代に誕生した「酒吞童子」の物語。変わりゆく時代の中で、このおとぎ話の大筋は変わらないものの、様々な形で変化していききました。前号では「酒吞童子伝説」の、一般的に知られる『御伽草子』と、江戸時代に成立した『前太平記』の比較をし、『前太平記』が非常に異質な存在であることを述べました。でも、このイレギュラーな「酒吞童子」退治の物語は、きっと福知山市の人たちにとっては身近なものであるはず。『大江山酒吞童子由来』、通称「鬼ヶ茶屋本」。これは福知山市大江町佛性寺にあった料理旅館「ますや」に伝わる伝説の古資料です。「ますや」は江戸時代弘化年間（1845〜1848）から地元鬼の伝説を商業に利用し、宮津の成相寺や天橋立へ向かう客に伝説の案内をしていたことから「鬼ヶ茶屋」という愛称で呼ばれました。その「鬼ヶ茶屋」に伝わる「酒吞童子」退治は、『前太平記』との共通点が多いのです。「しゅてんどうじ」の名前の由来は、『前太平記』と同様に酒に酔うと倒れてしまうことから「酒」・「顛」・「童子」と名乗り、さらに都で巻き起こった大風の犯人が「酒顛童子」と占われている。その他の物語の共通点は以下の画像をご覧くださいと思いますが、筆者の興味深いと感じるのは「鬼ヶ茶屋本」と『前太平記』に共通する「二つのおおえやま」です。『前太平記』には「おおえやま」が二つ存在しました。福知山市の「千丈ヶ嶽」と京都市・亀岡市の「大枝山」。「鬼ヶ茶屋本」でも、鬼の根城は二つに分かれ、頼光一行は「千丈ヶ嶽」へ、頼光の長男・頼国は「大江山」へ鬼退治に向かいます。

「鬼ヶ茶屋本」の「大江山」ははつきりと京都亀岡の「大枝山」であることは明言されていません。しかし、鬼の根城が二つ存在し、片方には頼光ではなく頼国が討伐に向かうという『前太平記』とは同じ展開が、「鬼ヶ茶屋本」には反映されています。そして、私はさらに、本紙の「ふくちやまと鬼」でも触れた、「鬼ヶ城」の存在に注目したいのです。「鬼ヶ城」は茨木童子が守ったもう一つの鬼の根城にして、頼国によって滅ぼされた伝承があります。とても、とても共通点の多いこの二つの資料と、一つの伝承をどのように考えましょう。『前太平記』は江戸時代、歌舞伎や浄瑠璃の題材にも使われるほど有名な作品でした。そして、「鬼ヶ茶屋本」は、京都府京丹後市大宮町谷内の岩谷寺所蔵の「大江山鬼退治絵巻」の写しとされています。その「大江山鬼退治絵巻」が『前太平記』の物語を模されて作られ、そしてそれを「鬼ヶ茶屋」が伝説をアピールするための素材として写したのでしょいか。しかし、それならば地域の伝承とは異なる物語をわざわざ写すのでしょうか。「鬼ヶ城」の伝承がそれを否定していると感じます。筆者はこう考えているのです。『前太平記』の「酒顛童子退治」の物語は、福知山市の伝承をもとに描かれたのではないのかと。



大江山酒吞童子由来より
大江山名所を案内する鬼ヶ茶屋

『鬼ヶ茶屋本』と『前太平記』の共通点

- * 「酒吞童子」ではなく「酒顛童子」
- * 永祚の風と人民の失踪の犯人とされる酒顛童子
- * 藤原保友の登場
- * 頼光と共に鬼退治へ向かう長男・頼国
- * 二つ存在する「おおえやま」
- * 「酒顛童子」の出生（越後（新潟）で16力月母の胎内で育ち、成長後は捨てられる）
- * 「情けなしとよ客僧達、いつはりなしにと聞きつるに、鬼神に横道なきものを」の消滅
- * 凱旋後、頼光と保昌の出世し、頼光は肥前へ、保昌は丹後へ赴任する。

「鬼の絵詞」編集拠点である

福知山 雲原

鬼そば屋とは

時は安政のころ……江戸時代から続く峠のへんのそば屋

「鬼そば」の名は、ここ雲原からはじまりました

鬼退治の時代にそばはなかった？！

じゃあなぜ「鬼そば」と呼ばれているのか

その答えは、鬼そば発祥の地、雲原の鬼そば屋へ☆

これから私たちが残してまいります

福知山 雲原 おに

鬼そば屋 なゝ姫

京都府福知山市雲原一二四八二

Mail onisoba.nanahime@gmail.com

〇七七三・三六・〇〇一六

www.onisobaya.net

定休 火・水曜日
十一時から十五時ごろまで

国道176号線沿い「雲原(くもはら)」という集落です

Kumohara Onisobaya is a buckwheat noodles restaurant located on Kumohara, Fukuchiyama city, Kyoto pref.. You can enjoy traditional Japanese dishes with natural foods. You can talk to the master in English. We can teach how to cook. Please contact us: onisoba.nanahime@gmail.com

つまり古代の「カサ」は東舞鶴の青葉山から大浦半島にかけての地域の呼称だったのではないかと考えられてもいるので

す。そしてヤマト王権の国家統一前、ここに古代北近畿地方勢力カタニハ小部族国家連合に属する笠王国ともいうべき小部族国家があったのかも？

そしてヤマトへの吸収合併に賛成した北近畿の他の部族から第十一代垂仁天皇の皇后が、反対派の急先鋒が、後に土蜘蛛として退治されることになる陸耳御笠だった。

ところで、青葉山を拠点にしていた陸耳御笠が由良川大江山に逃げ込んだという事は、ヤマト日子坐王軍に東側つまり若狭側から攻めこまれた事が分かります。日本海側の古い神社を調べてみたのですが伊勢大和文化圏の神社が南向きなのに対して出雲日本海文化圏の古い神社に東向きが多いのが気にかかります。やはりこの地方は日の出を遥拝する風習があったこととの関係でしょうか。「丹後風土記残欠」には主戦場の原っぱ一面が兵隊たちの血で埋ったので、血の原、後に千原。由良川の攻防で川を守ったから河守。その為に盾を原っぱに並べたから盾原、後に蓼原という地名になったとされています。蟻道の郷と呼ばれた由良川流域の大江町辺りが合戦の主戦場。陸耳御笠はこの戦いで愛妻の匹女を亡くしています。この匹女(ヒメ)という名称も初めは貴女(キメ)で、ヤマト軍によって討死したために卑の文字が付けられて卑貴女(ヒ・キメ)↓匹女になったのでは？なんて考えていたら宝塚歌劇の新しいシナリオが書けそう(笑)。

経ヶ岬

伊根

日本海

京丹後

与謝野

宮津

天橋立

由良

大浦半島

舞鶴

若狭

福井県

綾部

京都府

福知山

雲原

大江

雲原

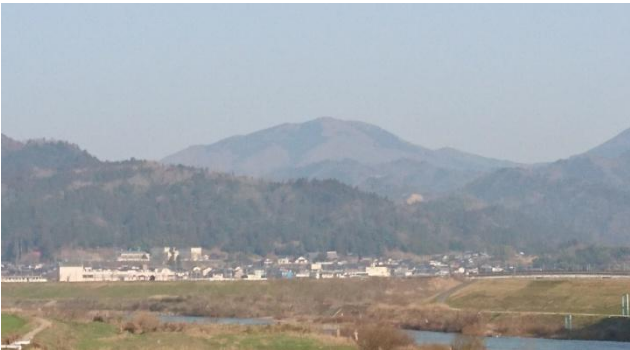
ここ

我が鬼伝説

全国の鬼伝説好きが、自分の好きな伝説について熱く語る連載。
第三回は伝説のお話を、大江町御赤松さんにお願ひしました。

陸耳御笠(クガミノミカサ)の伝説

赤松武司(京都府 大江地域観光案内倶楽部会長)



千原地内から由良川を挟み対岸の河守(左方向に蓼原)と、その遥か後ろに聳える大江山連峰千丈ヶ嶽

大江山には三つの鬼退治伝説が伝わっていますが、最も古いのがこの陸耳御笠伝説。第十代崇神天皇注①の時代、舞鶴の青葉山から与佐大山(大江山)に勢力を持っていて、ヤマトに反抗した為、天皇の弟日子坐王(ヒコイマスノミカミ)に討たれた土蜘蛛(注②)です。

注①……第十代崇神天皇はただし、この時代は天皇という言葉は無く大王と言っていたらしい。因に現在の天皇は百二十五代。注②……土蜘蛛↓ヤマトに刃向かった者たち。この時代まだ鬼という言葉が無かった。

このお話は「古事記」にも記載され「丹後風土記残欠」にかなり詳しく載っています。「丹後風土記残欠」偽書説も以前から有りますが、由良川筋の地名の起りが、この陸耳御笠退治との関わりで説明されているので、地元にとっては貴重な資料です。かつて舞鶴市と大江町は加佐郡に属していました。「丹後風土記残欠」にも、加佐郡のルーツは「笠郡」とされています。青葉山には東側の峰には若狭彦、西峰には笠津彦が祀られているという伝承が伝わっています。笠のルーツは、この笠津彦ではないのでしょうか？

大浦半島で関西電力の火力発電所建設現場から「笠氏」の刻印のある9世紀頃の製塩土器が発見され、笠氏と呼ばれる古代豪族が、ここに存在していたことが証明されました。

おにへんたい(鬼の絵詞編集隊)からのお知らせ

☆著者、募集します！ご意見もどうぞ☆

◆我が鬼伝説◆

「鬼」に関することなら、古今東西何でもあり！

書きたいことを、800字から1200字程度、写真数点含めて掲載します。

自由な発想でどうぞ。

◆書きたい企画◆

みなさまのご意見、広く募集します。

でんわ 0773(36)0016(鬼そば屋／火・水曜日以外の日中)

FAX 0773(36)9006(鬼そば屋)

メール oninoekotoba@gmail.com

もしくはおにへんたい各個人のSNSなどへ直接どうぞ☆

(著者の概要から名前を検索／Twitter、Facebookなど)

編集部きっての旅好き、山内がお送りする不定期連載

鬼の「ゆかり」訪ねて vol.2 ー温羅(岡山県岡山市)-

「おとぎ話の中でも有名な「桃太郎」。その元となる話が、岡山に伝わる「温羅 (うら)」という鬼の伝承です。舞台は、現在の岡山駅から北西に伸びる桃太郎線(吉備線)の一带。

温羅は吉備(現在の岡山から広島東部)一带を治めていました。しかし、その悪事を聞いた崇神天皇の命で、吉備津彦命が温羅の討伐に向かったのです。吉備の山中に城を構えていた温羅に対して、吉備津彦命は平地をはさんで10キロほど南東にある中山に陣を敷いて戦いを挑むことに。

吉備津彦命は弓矢で応戦するも、温羅は石を投げつけて全て迎撃。そこで吉備津彦命が同時二本の矢を射かけたところ、矢の一本が温羅の左目に直撃。温羅は目から血を流しながら姿を変えながら逃亡するも、最終的に鯉に化けて川へ逃がれたところを、鵜に姿を変えた吉備津彦命に捕えられたのです。

吉備を平定した吉備津彦命は、陣を構えた場所、現在の「吉備津神社」に祀られています。その境内の一角には、温羅の首が埋められ、その祟りを鎮めるかのように今でも「鳴釜神事」が行われています。

温羅が城を構えたといわれる場所は、「鬼ノ城(きのじょう)」と呼ばれていて、近辺には「血吸川」「鯉喰神社」など戦いの様子が伺える地名が現在も残っています。

製鉄など大陸の技術をもたらしたと言われる温羅が、果たして「鬼」だったのでしょうか？敗者ゆえに「鬼」と呼ばれるようになったのかも知れません。



吉備津神社: Kibitsu Shrine, located in Okayama City. According to legend, Imperial General camped here against Oni named "Ura".

うみくま(うみ)Unikumadoji: Writer

海熊童子: 酒呑童子伝説好き

監修・連載担当

東京生まれの東京育ちの武蔵の民。

Webサイト「月下庵

(<http://gekkan.web.fc2.com/>)」で古典文学『前太平記』の現代語訳を公開中。中学生の時に酒呑童子伝説に出会い、大学でも酒呑童子で卒業論文を書く。その過程で福知山にフィードバックで訪れ今に至る。好きなものは『前太平記』と酒呑童子伝説と福知山と猫と米。

好きに生きてる道楽人。



やまうちかずひろ Kozuteru YAMAOUCHI: Writer/Editor

山内一輝……フリーライター

校正・構成担当。

1979年岐阜県生まれ。京都伏見在住。ライターとして活動中。2002年京都大学文学部卒業。塾講師を1年勤めた後、ドイツへ渡航。帰国後に大学生協で下宿・旅行を担当する。「伝承」と「地方の魅力」をキーに発信中。

問い合わせ・原稿／講演の依頼は、kwillfinder@gmail.com まで。情報はフェイスブック(山内一輝 / Kozuteru Yamouchi)へ発信。

みなさまのご意見募集中！

『鬼の絵詞』編集部や創作集団珠彩では、ご意見、ご感想をお待ちしております。

「こんな企画が欲しい」「これを知りたい」などなど、どうぞお気軽にご連絡ください。

電子メールは oninoekotoba@gmail.com

電話は雲原鬼そば屋 0773(36)0016

ファックスも鬼そば屋で 0773(36)9006

手紙も鬼そば屋なゝ姫宛にて、〒620-0221 京都府福知山市雲原1248

編集者の紹介 Writers

ななひめとしふ Tori Hime: Toastfunt Designer

なゝ姫飛矢文……雲原鬼そば屋

編集・作画・印刷等担当。

創作集団珠彩。

埼玉生まれ東京育ち、福知山在住。あだ名は「姫」で、江戸時代から続く峠の茶屋「鬼そば屋」の料理長。家政学やデザインなど専門範囲が広いなか、今はその知識や経験をそば屋に注いでいる。大学院生時代の研究で丹波丹後に入りしていたのが移住のきっかけ。創作集団珠彩(たまいろ)として活動中。